

O.Gアドバイザーからのメッセージ



高専での5年間について

佐々木 菜緒 建設環境工学科/小名浜第二中学校 平成28年度卒業

高専は男子だらけの学校、と思っていませんか？私の建設システム工学科は4割が女子でした。クラス替えはなく5年間一緒なので男子も女子も絆が深まり、助け合う仲間という感じになります。

低学年時1～3年は一般教科と基礎的な専門教科(建設分野、環境分野、都市計画分野)など幅広い授業です。班ごとに分担協力しながら測量実習、川の水質調査、コンクリートの強度実験など多くの実習実験に取り組み、結果をレポートにまとめ提出します。学科ごとにフロアが分かれていますので先輩にも教えてもらえます。

高学年4～5年はさらに高度な専門的な授業を自分で選択します。難易度は上がりますが、解らないところは、昼休みや放課後に先生に聞きに行くと丁寧に教えてくれます。高専には職員室はなく先生方は研究室という1人1つの個室にいるのでとても訪ねやすいです。

卒業後の進路は進学と就職が半々で、進路に迷っても先生が親身に相談に乗ってくれるので心強いです！

私は中学2年生の冬に東日本大震災を経験し、社会生活の基礎となるインフラ(道路・交通・電気・水道・電話など)の重要性を痛感しました。そして復興の役に立ちたいと思い、高専の建設システム工学科を選びました。

現在は通信会社で、地震や津波に強い社会基盤系の業務に携わっています。高専での机上の数学や物理、屋外で実習、レポートや論文の書き方を学んだおかげで、国県市町や一般企業との合同の仕事もスムーズに進められます。

同級生たちは民間の企業や国、市の公務員などみんな夢を叶え、就職したり、より専門的な知識を習得するために大学や専攻科へ進学しています。

以上のように高専では内容の濃い専門的な学問を学ぶことができ、将来に向けてたくさんの選択肢を得られ自由に選択できます。ぜひ、高専で充実した5年を過ごしてみませんか？

男女共同参画・キャリア教育支援室の女子学生支援

1. 女子学生に対するキャリア・進路支援

2. 女子学生に対する勉学生活支援

3. 女子中学生の入学支援

キャリア・コンサルティング実施日/
毎週水曜日午後1:00～5:00

奥寺 絵里 / 2級キャリアコンサルティング技能士
(株)飛馬オープンカレッジいわき校
(コミュニケーション情報学科3期生/玉川中学校)

大木 美佐緒 / 2級キャリアコンサルティング技能士
(株)飛馬オープンカレッジいわき校



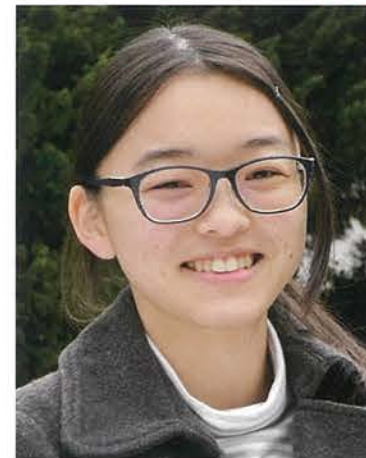
奥寺絵里さん(左)と大木美佐緒さん(右)

女子中学生のみなさんへ

NEW START

No.11

未来へ向かって輝く福島高専女子!!



発行日/平成31年3月25日
福島工業高等専門学校 / 男女共同参画・キャリア教育支援室発行
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30
URL <http://www.fukushima-nct.ac.jp>



福島工業高等専門学校 / 男女共同参画・キャリア教育支援室

未来へ向かって輝く福島高専女子!!

高専機構理事長賞、福島高専おやきチーム!

小林 由佳
機械工学科5年(小名浜第二中学校)



廃炉創造ロボコンを知っていますか? 高専ロボコンとは違い、廃炉作業現場を課題としたロボコンです。私はこのロボコンに参加し、私たちの「はじめてのおつかい号」は賞を受賞することができました。すべてをギリギリで過ごしていた制作期間からは想像もできない結果で、諦めずに本当に良かったと思いました。

何かを成し遂げようとしている時、もう無理だと思っても最後まで悪あがきをして下さい。何か得るものがきっとあるはずです。



▲チーム「おやき」のメンバーと



▲ゼロから設計製作した「はじめてのおつかい号」

研究を通して

大内田 優香

専攻科 生産・情報システム工学科2年
(小野中学校)

電気工学科5年生から、人工知能による脳波解析の技術開発をテーマに研究をしています。自ら調査し学び、時には先生方のアドバイスを頂きながら、3年間取り組んできました。得られた成果を、電気学会や品質工学会などの学外場で発表することも経験しました。学会へ参加することで、他校の学生・先生方や企業等の専門家の方々と交流することができ、その度により自分の視野が広がる感覚を覚えました。これまでの経験を活かし、福島高専を修了して社会へ進み出した後も、常に自ら学ぶ事を忘れず、自己の研鑽に努めていきたいと考えています。



▲研究風景



▲発表の様子

好きなことを形に

野場 なお

化学・バイオ工学科2年(横田中学校)

私は、化学・バイオ工学科ですが、ロボット作りをしています。高専入学前は、ロボット作りの経験は全く無関心な分野でした。始めた動機は単純で、「ロボットを作れるってかっこいい!」と思ったからです。動機は些細な事でもいいと思います。何かを形にするのは一筋縄ではいかないことが多いですし、不安や壁もあるはず。しかし、自分で「やる」と決めて行動したことから得るものはとても大きいです。何が得られるかは実際に行動を起こし実感してください。

私は、残りの3年で絶対に技術賞をとります。あなたは、高専5年間で何をしてみたいですか? ?



▲競技前のロボットセッティングの様子



▲副賞に好きなロボットの小型模型をもらい喜びの様子

寮生活を通して

佐川 瑠菜

物質工学科5年(古殿中学校)



私は高専入学と同時に磐陽寮に入寮しました。入寮前はたくさんの不安がありましたが、入寮後は先輩や同級生とすぐに打ち解けて楽しく毎日過ごしています。寮では、他学科・他学年の人と繋がることができたり、共同生活を通してお互いに助け合うことの大切さを学んだりすることができます。私にとって寮は、人として大きく成長できるだけでなく、家での生活では経験のできないことを経験できる貴重な環境です。皆さんも磐陽寮に入寮する機会がありましたら、寮でしか経験のできないことをたくさん経験して、寮生活を楽しんでください。



▲寮行事写真



▲寮生会役員

研究との出会い

五十嵐 日菜

専攻科 社会環境システム工学科2年
(勿来第一中学校)

私は高専で初めて地盤工学という分野に触れて興味を持ち、地盤研究室に所属し研究に励んできました。3年間の研究の成果を土木学会全国大会にて発表した際、優秀講演者賞を受賞することができました。また、来年度からは地盤関係の会社に就職します。高専では、専門的な知識を学ぶ機会が多く、他の学校では触れることのできない分野と出会うことで人生が大きく変わることもあります。みなさんも、高専に入学して自分だけの武器を見つけてみませんか?



▲受賞記念写真



▲土木学会にて集合写真

国際会議に参加して

江尻 彩菜

コミュニケーション情報学科4年
(中央台南中学校)



マレーシアで開催された国際的な会議に参加しました。私は「誰がより良い未来をつくるのか」をテーマに、企業の果たすべき役割と社会・企業・すべての子どもたちがどのような関係を保っていくべきなのかを中心に発表し、ベストポスタープレゼンテーション賞をいただくことが出来ました。最近では、この発表を元にしたアイデアを提案するなど、様々なことにチャレンジ出来るようになったため、今後も常に広い視野を持って活動したいと思います。



▲表彰式の様子



▲新しい仲間たちと

部活動は仲間と夢中になれる場所

高橋 百花

コミュニケーション情報学科5年
(磯原中学校)



私は全国高専大会で、出場したすべての種目において優勝することができました。これは私一人の力ではなく同級生や先輩後輩をはじめとする、支えてくれた周囲の人たちのおかげです。部活動を通して一緒に目標に向かって頑張る仲間ができました。また、苦しいときも諦めずに継続することの大切さを学びました。1つのことに一生懸命になることは、みなさんの強みになります。入学したらぜひ、夢中になれるものを見つけてみてください。



▲ともに頑張ってきた5年生



▲3つの金メダル

行動して、現状を知る

齋藤 真緒

ビジネスコミュニケーション学科3年
(大熊中学校)

私は高専2年生の夏にネパールへボランティア留学をしました。この留学がJICAエッセイコンテストに応募するきっかけとなりました。私は、実際に留学して知ったネパールの現状、「行動すること」の大切さ、そして福島県の復興のために自分に出来ることを多くの人に伝えたいと思い、エッセイを書きました。今回、独立行政法人国際協力機構理事長賞という素晴らしい賞を頂くことが出来、とても嬉しく思います。これからも沢山の事に挑戦(行動)して、地元の復興のために自分に出来ることを探し、それを実行していきたいと思っています。



▲ネパールの子ども達と交流



▲国際色豊かな壁絵

日本での留学を通して

オトゴンバタル ムンフゲレル

建設環境工学科3年



私は2018年4月にモンゴルから来ました。最初の頃は慣れない日本語による授業で困ったことがありました。しかし、周りのみんなが助けてくれたおかげで、今では高専の勉強も生活も順調です。2018年11月に私はいわき市国際交流会主催の外国人スピーチコンテストにチャレンジしました。そこで私は、いわきの環境が安全なこと、福島をモンゴルにPRしたいことを伝えました。結果は、優秀賞でした。自分の意見を日本の方に伝えることができて、とても嬉しかったです。福島高専では、勉強だけではなく、色々な活動を通して自分自身を成長させることができます。皆さんぜひ福島高専で自分自身を磨いてください。



▲スピーチをしている様子



▲受賞記念写真